

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立糀谷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・作文を書く機会を増やすことができた。行事と連携したり、授業の中で条件作文を書いたりなど、場面設定をして行った。

(2) 課題

- ・思考・判断・表現の観点のうち、正確に読み取ることを苦手としている生徒が多い。文中から根拠となる描写や記述を探す姿勢を身に着けさせる必要がある。
- ・話を聞く、集中するという環境づくりから始める必要がある生徒も一定数いるため、その日の学習させたいレベルに到達させられない現状もある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	正答率が目標値とは同率である。しかし、応用は数ポイント目標値を下回っており、書くことに大きな課題がある。	/	/
第2学年	目標値に対してわずかに上回っている。特に説明文の読解は目標値を上回っている。漢字の書きが目標値を大きく下回ったことから大きな課題があるにとらえられる。	区の平均を数ポイントほど下回っているが、漢字の書きや報告する文章を書くことは区の平均よりも数ポイント上回っていた。一方、文章を読むことと書くことに課題がある。	/
第3学年	正答率が目標値から大きく下回っている。特に書くこと、文法・語句に関することに課題がある。	区の平均を数ポイントほど下回っているが、昨年度より区の平均に近づけることができ、学力の上昇が見られた。特に情報の扱い、読むことに課題がある。	区の平均を数ポイントほど下回っているが、昨年度の校内平均値を若干正答率となっている。特に話すこと・聞くことと書くことに課題がある。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞き取り・漢字の読み書き、文法のいずれにおいても目標値を下回っている。特に課	説明文や物語文の内容読み取りは目標値を達成している。しかし、自分の考えをま	一問一答のように答えが単純明快であることには意欲的に取り組むが、自分で考える

題があるのは漢字の読みであり、10ポイント以上下回った。	とめて書くことについては10ポイント以上目標値を下回っている。	ことについては苦手意識も相まって取組みが後ろ向きになる傾向がある。
------------------------------	---------------------------------	-----------------------------------

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校の漢字の書きと歴史的仮名遣いの理解が目標値よりも大きく下回っている。	読解全般は目標値を上回っているが、説明的な文章において叙述をもとに読み取る点に課題がある。	それぞれの取組に対しては意欲的であるが、学習内容の難易度が上がってくると、粘り強く取り組むことができない生徒がいる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の書きはおおむね目標値に迫っている。用言の活用、類義語についての理解の正答率が低く、課題があると考えられる。	登場人物の言動の意味について考えて内容を解釈することや文章の表現の効果について考えることは昨年よりも良い結果が出ている。一方で、文学的文章・説明的文章、文章を書くことの正答率が全体的に課題である。	自分の考えを求められる問題には意欲的に回答しているが、文の構成を伝わりやすいように工夫するという点には至っていない様子である。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の読み書きについて、授業の導入5分で小学校の漢字の書き取りを行う。週に一度の漢字ノート提出と漢字小テストを行い、定着を丁寧に見取る。長期休暇でさらに復習の課題とテストを行うなど繰り返しの指導を行う。	書く経験を多く積ませる。単元の終わりに短い文章を書く活動を多く取り入れることで、書くことに慣れていくようにする。また、説明文においては文中の構成をまねることで苦手な生徒も取組めるようにする。	学習全般において意欲が学習の習得に繋がる指導を意識する。書くことについては「書きたい」「書けるかもしれない」と生徒が思える課題設定を行い、漢字などについてはスモールステップを行う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学生で学んだ漢字の書きが積み残しとなっているため、教科書の音読を生徒にさせ躓いた漢字を取り上げて指導するなど、復習の機会を設ける。歴史的仮名遣いは「枕草子」「徒然草」の学習	授業課題を与える際、記述に基づくことで答えが明確にできる課題と自分の考えをまとめる課題とを意識的に分けて出題する。「何を求められている課題なのか」という目的を明確にさせ、そのため	一定数の生徒が我慢強く考えることを苦手としている。授業内に何をしたらよいか分からない、どんな手順で課題を進めたらよいか分からない、という疑問が原因であることが多いため、活動

で基礎から問題を解かせていく。	にどんな手段が必要かを考えていく指導を心がける。	に入る前の生徒との確認を大切にしていく。
-----------------	--------------------------	----------------------

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の読み書きについては、今年度から毎週、漢字のテストを行っている。文法については、2学期末に文法の問題演習を中心に行う予定である。	説明的な文章の読解については、要約や要旨まとめの学習から、段落同士のつながりを考えていくことを大切にしていく。文学的文章の読解については、内容や人物の心情を思い込みで読んでしまう生徒が多いため、文中や文脈から根拠を挙げられるよう授業をしていく。文章を書くことについては、200字作文を定期的に入れていく。	伝わりやすい文章が書けない、文章に苦手意識があるという生徒のために、章の型を示し、具体と抽象を意識して書かせることで伝わりやすい文章とはどんなものかを実感できるようにしていく。意欲が学習の習得に繋がる指導を意識する。